

大地に立つ

大地に立つ

空を見上げれば、碧空。
何も無い。

ここに立っていることの不思議。

一陣の風さえ、その答えを教えてくれない。
だが、居ることで風になってゆく。

65歳、70歳といえば、引退、隠居の時節。

一線を引いて、悠々自適か、道楽か、奉仕か……余生を楽しむ。
だが、これから壮大な大地に向かって零0からの出発。
本格的な農業経験のないまま、突入。

老体には、適度な運動と休息が必要と言う。

だが、かつてしたことのない早朝から晩まで、ハードな労働に明け暮れる休みのない毎日。
自然は容赦なく変化し、成長し、鍛えてくれる。
誰が、驚こうが、体が一番驚いているだろう。

思い起こせば、33年前、内地から家内と二人で帰郷した時、
「農業をやりたい！」のハズだった。

だが、何もかも無い無い尽くしで、最も身近な自然食品店からやるしかなかった。
それが、「まほろば」の始まり。
その前提に30年以上も費やしてしまったのだ。

そして、今年5月。

晴れて「まほろば」の始まりに帰って来れた。
その立脚点に立てたのだ。

「まほろば」がここまで育ち、
充分力も、余力も付き、どんなことさえも開ける気に充ちている。
普通なら、経営者なら、拡大するであろう。
しかし、あえて、その道を選ばなかった。
何か違うような気がしていた。

あなたでなければ出来ないことを、やるべき。

世間は、そういうであろう。

あなたがキャベツを作らなくても、誰でも作れるでしょう。

しかし、あなたがいなくても出来ることを、あえて選んだ。
誰でも作るキャベツを、作るべき日々を過ごしている。
そして、誰にも作れないキャベツを作るために……。

クタクタに疲れた体、風呂に入る心地よさ、飯の旨さ、家族との会話の安らぎ、

布団に入ると泥のように眠る。

心には、何も残らなくなった。

ポカーンとするようになった。

そのまま、あの世に行きそうな感じだ。

人間って、こんなだったのだ。

今さらながら思う、遅きに失した私。

何時からか、掲げた「小国寡民」。

言葉だけで、本当は分かっていたな……。

今までは、周りは人人人、事事事、物物物……。

でも、今は朝から晩まで、家族の顔しかいない。

ああ、これ以上少ない民は無いよナ。

小っちゃい国もない。

老子は、ここを言っていたのか。

平和って、小さなところにあるんだって。

何にも俺、解っちゃいなかったな……。

本当に、これからも解るのかな……。

まほろばの店を拡げるより、売り上げを伸ばすより、

ここで、大地を一人耕している方が、

まほろばの真実なような気がする……。

第三の人生は、原点に立ち帰り、農業を志すことに決めました。

今は、妻と次男の三人で、人口3000人ほどの小さな町で野菜を作っています。

まほろば主人